

第4節 東京湾の再生につながる広域的な取組

森林、農地、都市、河川、沿岸域等の陸から海にかけての生態系は、水循環、物質循環等を介して密接な関係を持ち、ひとつの流域圏を構成しています。

閉鎖性海域である東京湾は、河川等を通してもたらされる赤潮・青潮の発生原因である汚濁負荷等が湾内に留まりやすい特性を有しています。

また、陸と海との相互の関わりについては、「森は海の恋人」といわれるように、水源のかん養、栄養分の供給等の機能を有する森林の保全が海の環境や生態系の保全につながるという認識が全国的になされるようになってきました。

三番瀬についてみても、三番瀬に流入する河川及び陸域からの汚濁負荷の低減に取り組むとともに、海域が連続している東京湾を意識し、そこに流入する河川の流域や広く東京湾を組み込んだ広域的な視点が重要となってきます。

このことから、県として、三番瀬の自然再生を進めるとともに、国をはじめ、東京湾に流入する河川の流域や東京湾周辺の自治体等と連携を強化した広域的な取組を目指します。

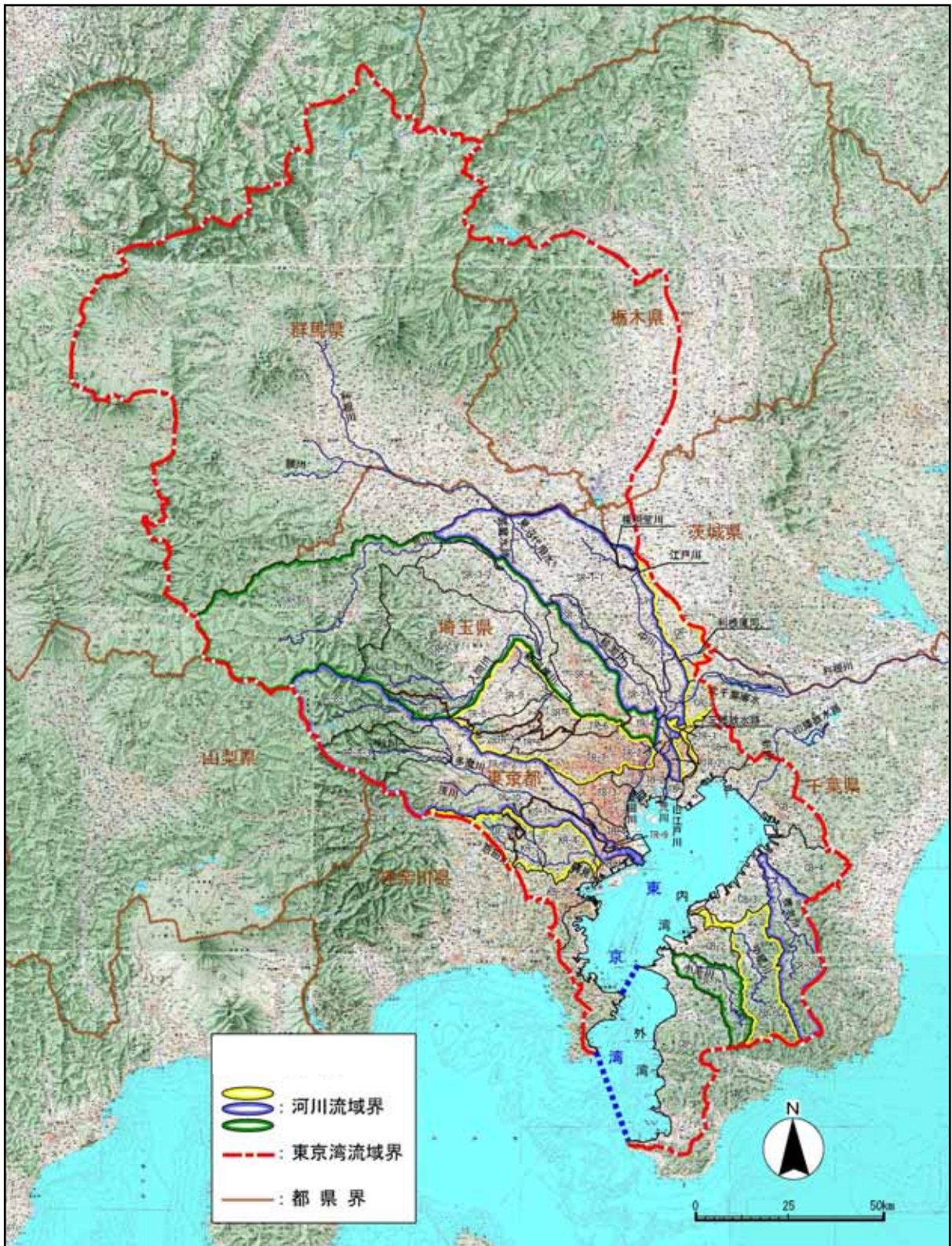


図 1 - 4 - 1 東京湾の流域界（国土地理院の数値地図を基に作成）